

ポライトネスから見る若者ことばの機能

— 龍谷大学キャンパス語の分析を通して —

Positive Politeness in the Young Generation's Japanese: A Study of College Students' Language

村 田 和 代
MURATA Kazuyo

キーワード

[ポジティブ・ポライトネス] positive politeness ・ [共有知識] shared knowledge
[親しさ] friendliness ・ [連帯感] solidarity ・ [対人関係] interpersonal relationships

I. はじめに

若者ことばについての研究は、1990年代に入って活発に行われるようになってきた（小矢野 1994、永瀬 1994-1995; 2002、米川 1996; 1998、他）。先行研究においては、若者のことばの収集にとどまらず、造語法や意味対象といった言語学的特徴や、使用目的や機能、使用する学生の心理との関係、男女や地域差等さまざまな角度からの分析が進められている。若者ことばの中でも、特に大学生のキャンパス言葉リストは、書籍としてまとめられるだけでなく、インターネットのサイトにも掲載されている（参考文献参照）。本稿では、「龍谷大学キャンパス語」の分析を通して、その機能を、特に言語の対人関係機能の側面を扱うポライトネスの観点から考察する。

語の収集に際しては、以下の米川（1996: 13）の若者ことばの分類を参考にした。

若者ことば	{	キャンパスことば、学生語
		OLことば
		若い男性社会人のことば

「キャンパスことば」とは、一般に大学生がキャンパスで使用する、学校に関することばであり、「学生語」はキャンパスことばよりも広い概念で、キャンパス外でも、また学校に関すること以外についても言うことばである。本稿で収集した語は、「キャンパスことば」及び「学生語」の両方に渡る語であるため「龍谷大学キャンパスことば」という名称ではなく「龍谷大学キャンパス語」を使用することとする。

キャンパス語の調査概要は次の通りである。調査対象者は龍谷大学文学部学生計100名で、調査は次のように行った。2002年度文学部英語学講読受講生に、龍谷大学キャンパス語集を

作成するにあたり、これに該当する語及び定義、例文をあげてもらった。翌年度受講生には、2002年度作成リストに不足している語を書き加えてもらった。さらに、2004年度受講生には、それまでのリストに不足している語を書き加えてもらったり、定義や例文の推敲をお願いした。また、収集と並行してリストに挙げられている語の認知度を調査し、極端に低い語については削除した。なお、今回は対象学生が全員文学部所属であったため、他学部の学生が使用している語までは網羅できなかったが、調査の主要な目的が辞書作成ではなかったので、この点に関しては配慮していない。このようにして収集した語は合計116語であった。紙面の制約上、全語集からの抜粋を「付録」として掲載した。

本稿の分析手順は次の通りである。まず造語法に着目して分類し、その特徴を論じる。続いて、語が表す対象を分析して特徴を論じる。その後、キャンパス語の機能についてポライトネスの観点から論じていくこととする。

Ⅱ. 造語法による分類と特徴

収集したキャンパス語の造語法に見られる特徴を、米川（1996）や中東（2002）を参考に分類した。表1はその分類一覧である。以下、例をあげながら考察しよう。

表1 造語法による分類

省略（59語）	アメ歴、アジ歴、営、えい、英文、英米、エラー、オール、追いコン、学館、学祭、カテキョ、学文、北、基礎演、基礎2、草、京阪、顕前、コピカ、済、再履、ササチー、サマセ、三地下、就活、深夜、新歓、スベ語、スポサイ、瀬田キャン ⁽¹⁾ 、卒論、たんえ、独語、中執、日文、二地下、飲み、般教、バトミ、8トレ、東、フラ語、フレキャン、文局、文祭、朋館、ボル語、ポボロ、本登、宮、四地下、陽館、予備登、龍大、龍祭、龍実、リソ、龍チャン
合成（21語）	イタメシ、おな中、ゲンチャ、合コン、自主休講、吹奏さん、瀬田っ子、瀬田バス、ゼミコン、全取り、チャリ通、徹マン、二穴、8トレ王、深草人、宮っ子、宮日、宮バス、ヤン毛、陽ロビ、龍バス
名詞の動詞化（9語）	キプる、拒否る、コピる、サボる、タクる、ハコる、パソる、はみる、プチる
英語を取り入れた造語（9語）	キプる、じもティー、じもッチ、瀬田キャン、だぶる、チャイ語、フル単、ボックス、ラブスペース
語呂合わせ（4語）	シャカシャカ、チャリ、ラブスペース、連チャン
イメージからの語（8語）	大宮マジック、祇園精舎、寺っ子、バッハ、ブッチする、プリン、緑の監獄、ラブスペース
元の意味とは異なる意味で用いられる語（11語）	エース、オネエ、キックする、K、通達、テレビ、はしる、ブッチする、祭りに出る、ラウンジ、リーチ

1. 省略

もっとも多かったのは、既存の語の一部を省略した語で116語中59語であった。合成語（21語）も元の語句の一部を省略しているのので、これらを加えると80語となり、省略が含まれる語は、今回収集した語の69%を占める。省略には次のようなパターンが見られた。

- (1) 上略 既存の語の前半部分を省略している語である。
例：(履修登録)エラー、(大)学祭、(降)誕会
- (2) 中略 既存の語の中間部分を省略している語である。
例：顕(真館)前、学(友会)館、フラ(ンス)語
- (3) 下略 既存の語の後半部分を省略している語であり、3拍の語が多く見られた。
例：オール(ナイト)、基礎演(習)、再履(修)、バトミ(ントン)
- (4) 複合語の各要素の後半部分の省略 2拍（ないしは4拍）の語が多く見られた。
例：追い(出し)コン(パ)、新(入生)歓(迎会)、就(職)活(動)、卒(業)論(文)、
龍(谷)大(学)、フレ(ッシャーズ)キャン(プ)

上記パターンは、組み合わせて使用される場合もあり、たとえば、(深)草(学舎)、(経)営(学部)は、上略と下略の組み合わせである。

2. 合成

語句を補うと元の意味が復元できるものであり、次のような例がある。

例：おな(じ)中(学出身者)、自主(的に)休講(とする)、瀬田(学舎行きのスクール)バス、(大)宮(学舎で授業がある)日

3. 名詞の動詞化

名詞等の一部に「る」を付加し「〇〇る」と動詞化したものである。すべて、3拍のラ行五段活用動詞であった。たとえば、「タクシーに乗る」を「タクる」、「コピーをとる」を「コピーる」といったように、述語動詞を「る」で代行させて短くしており、一種の省略とみなすこともできる。

4. 英語を取り入れた造語

英単語そのままを使用する語ばかりでなく、語の一部に英単語を取り入れた語もあった。また、英単語の一部を利用して造語したり、英語の接尾辞を単語に付加した造語も見られた。

例：ボックス、ラブスペース（英単語をそのまま使用）

フル単（“full”を語の一部として利用）

瀬田キャン（“campus”の一部を取り入れた造語）、チャイ語（“Chinese”の一部を取り入れた造語）

じもティー（人を表す接尾辞(-ee)を「地元」に付け特徴を表している造語）

5. 語呂合わせ

頭文字を組み合わせた、オノマトペ等で語呂合わせをした造語で、何れもユーモアに富んでいる。

例：シャカ(い学部)シャカ(い学科)（「シャカシャカ」というオノマトペを使用して語呂合わせをしている）

ラブスペース（RUV(Ryukoku UniVersityの頭文字)とLoveをかけて語呂合わせをしている）

6. イメージからの語

既存の語の持つイメージを利用した語で、次のような例が見られた。「語呂合わせ」同様、ユニークでユーモラスである。

例：大宮マジック（通常他学部では年間44から48単位が登録の上限であるが、文学部では三回生で60単位登録できる制度がある。まるで魔法のようにたくさんの単位が取れる制度なので、文学部のある「大宮(学舎)」と、魔法のようであることを表す「マジック」を複合した合成語である）

祇園精舎（祇樹給孤独園沙羅双樹(寺院)の略称が祇園精舎で、釈迦が修行したとされるインド中部の僧坊跡を指す。顕真館は法要等が行われる場所でもあり、そのイメージから祇園精舎と呼ばれる）

プリン（茶色く染めた髪が伸びて根本が黒く目立っている状態。その様子がカaramelソースのかかったプリンに似ていることからこう呼ばれる）

7. 元の意味とは異なる意味で用いられる語

次の例のように、マイナスの意味を表す語に、元々はプラスのイメージのある語が使用されている場合が多かった。

例：エース（「エース」という言葉は、スポーツでチームの主力選手（特に野球チームの主戦投手）を指す。授業にほとんど出席しない人を指して「エース」と呼ぶ）

キックする（「キックする」には、拒否するという意味もあるが、サッカーでは「キックする」ことはプラスのイメージがある。登録した授業の単位取得を諦める事を指して「キックする」と呼ぶ）

リーチ（麻雀であと一手であがれる場合をリーチと言うが、あと一回休んだら単位が取得できない時の出席状況を指して「リーチ」と呼ぶ）

造語法1から7に共通するのは、その語を理解するためには、その語の元の語やその語の意味を復元することができるのに十分な既存知識が必要であるということだ。たとえば、「フレキャン」という語を理解するためには、少なくとも元の語である「フレッシュャーズキャンプ」を復元できなくてはならないし、「テレビ」を理解するためには、それがいわゆる居間にあるような一般的な「テレビ」を指すのではなく、「深草学舎に屋外的大型テレビがあり、それをテレビと呼ぶ」ことを知っている必要がある。話し手は、聞き手が共通の既存知識を有しているはずだと考える際に、このような語を使用すると考えられる。

Ⅲ. 表現対象による分類と特徴

続いて、それぞれの語が表現する対象による分類を中東（2002）を参考に行った。表2は

その一覧である。

表2 表現対象による分類

龍谷大学に直接関係する語	授業、成績、あるいは大学行事に関する語（33語）	アメ歴、アジ歴、エラー、大宮マジック、学祭、キックする、基礎演、基礎2、K、再履、サマセ、自主休講、スペ語、全取り、卒論、だぶる、 <u>たんえ</u> ⁽²⁾ 、チャイ語、独語、はしる、バトミ、般教、フラ語、フレキャン、フル単、文祭、ポル語、本登、祭りに出る、宮日、予備登、龍祭、キプる
	龍谷大学の構内施設に関する語（21語）	学館、北、 <u>祇園精舎</u> 、草、顕前、三地下、瀬田キャン、テレビ、二地下、8トレ、バッハ、東、朋館、ボックス、宮、緑の監獄、四地下、陽館、陽ロビ、ラウンジ、ラブスペース
	龍谷大学の学部(学科)・学生、あるいは大学組織に関する語（17語）	営、英文、英米、学文、済、吹奏さん、シャカシヤカ、スポサイ、瀬田っ子、中執、日文、8トレ王、文局、深草人、宮っ子、龍大、龍実
	龍谷大学の周辺施設に関する語（2語）	えい、ポポロ
	仏教に関する語（3語）	<u>たんえ</u> 、寺っ子、 <u>祇園精舎</u>
日常生活等に関係する語	日常の行動・生活習慣に関する語（18語）	イタメシ、エース、オール、追いコン、カテキョ、コピる、ササチー、深夜、新歓、ゼミコン、ブチる、ブッチする、リーチ、連チャン、ハコる、拒否る、タクる、サボる
	移動や通学手段に関する語（8語）	京阪、ゲンチャ、瀬田バス、チャリ、チャリ通、二穴、宮バス、龍バス
	情報伝達手段に関する語（5語）	コピカ、通達、パソる、リソ、龍チャン
	人間関係に関する語（4語）	おな中、じもティー、じもッチ、はみる
	遊び・娯楽に関する語（3語）	合コン、徹マン、飲み
	ファッションに関する語（3語）	プリン、オネエ、ヤン毛
	進路に関する語（1語）	就活

表2の二重線より上が「龍谷大学に直接関係する語」、二重線より下が「日常生活等に関係する語」である。それぞれの特徴を考察しよう。

1. 龍谷大学に直接関係する語

ここに分類される語は、龍谷大学の学生生活に直接関係する授業や組織、あるいは建物等を表す語である。該当する語は116語中74語（重複した語は1つとして数える）で全体の64%を占める。大部分は龍谷大学独自の語であり、米川（1996）の分類による「キャンパスことば」にあたる。龍谷大学は仏教系の大学であり、仏教に関する語が数語見られたのも興味深い。これらの語を理解するためには、龍谷大学についてさまざまな既存知識があることが前

提となる。

2. 日常生活等に関する語

ここに分類される語の大部分は、一般的に他大学の学生も使用しているような語、つまり米川（1996）の分類による「学生語」にあたる。どの語も日常生活に深く関わるもの・人・概念等を表す語であり、リストにあげられている語から、現代の学生の日常生活を垣間見ることができて興味深い。

1・2に共通する特徴としては、キャンパス語を使用し、それらが理解されるためには、話し手と聞き手が知識を共有している（1であれば、龍谷大学の学生生活についての知識、2であれば大学生活一般についての知識）ことが前提となるということである。つまり、話し手がこのような語を使うのは、会話相手と背景知識を共有した話題について話す場合に限られると言えるだろう。

IV. ポライトネスから見た機能

以上、造語法と意味対象から「龍谷大学キャンパス語」の特徴を分析した。以下にまとめてみよう。

造語法からの特徴としては、省略が多い、イメージから作り上げた語や語呂合わせの語にユーモアが見られる、マイナスイメージの語（概念）をプラスイメージの語で表現するといった点があげられる。若者ことばに省略が多く見られる理由として、米川（1998: 51）は、会話のスピードを速めテンポをよくすること、娯楽性を高め会話を促進すること等をあげている。省略は、会話をスピーディーに弾みをつけ、おもしろく楽しくする機能があると言えるだろう。また、イメージからの造語や語呂合わせについても、先に見たように、会話をおもしろくユーモラスにする機能がある。さらに、たとえば、授業を休んでばかりの友人に対して、「前期授業休んでばかりだったから、後期は出た方がいいんじゃない？」と言うのではなく「前期エースだったから、後期は出た方がいいんじゃない？」と言うことで、相手を傷つけることを少しでも回避することができるだろう。このように、マイナスイメージの語（概念）をプラスイメージの語で表現することには、発話内容を和らげたり、ユーモラスにするという働きがある。そして、造語法が何であれ、これらの語を理解するためには、元の語や意味が復元できるだけの既存知識が必要とされる。

意味対象からの特徴は、キャンパス語は学生生活に密接に関わるもの・人・概念等を表現するということであった。ゆえに、キャンパス語の使用には、聞き手と知識を共有していることを確認し、会話を楽しみ、連帯感や親近感を分かち合う機能があると考えられる。

では、実際にキャンパス語を使用する側はこういった機能を意識して使用しているのだろうか。キャンパス語収集の際に、これらの語を使用する理由についても尋ねたところ、会話相手と連帯感・親近感を持てるから、会話のテンポがよくなるから、会話がスムーズに行えるから、会話を楽しむため、言いにくいことでもキャンパス語を使えば言えるから等の回答を得た。これは、分析結果から得たキャンパス語の機能とほぼ一致している。話し手は、キャンパス語を使用することで、聞き手に親しみを与えたい、聞き手と会話を楽しみたい、言

いにくいことを伝えなければならない場合にはできるだけ相手を傷つけないと考えているのである。つまり、キャンパス語使用は、会話する相手と円滑な対人関係を構築し維持することにつながるのではないだろうか。キャンパス語の機能について、言語の対人関係に関わる機能面を扱うポライトネスの観点から考察してみよう。

ポライトネスについての総括的な理論としてはBrown and Levinson (1987) があげられる。ポライトネス理論では、社会の成員であれば誰でも対人関係上の基本的な欲求であるフェイスを有すると考える。フェイスには、他者に理解されたい、他者と距離を縮めたい、仲間として認めてもらいたいという欲求であるポジティブ・フェイスと、他者に立ち入れたくない、自分の行動を妨げられたくない、他者と距離を置きたいという欲求であるネガティブ・フェイスがある。ポライトネスとは、この対人関係に関わる基本的欲求である2種のフェイスを脅かさないように配慮して話し手がとる言語行動で、ポジティブ・フェイスに配慮した言語行動をポジティブ・ポライトネス、ネガティブ・フェイスに配慮した言語行動をネガティブ・ポライトネスと呼ぶ。

キャンパス語に見られた、親しみを表す、会話を楽しくする、聞き手と連帯感を分かち合う、言いにくいことを言う際相手を傷つけないようにするといった機能は、ポライトネス理論の枠組みから捉えると、すべてポジティブ・ポライトネスであると言える。話し手は、日常会話において、これらキャンパス語を使用することで、聞き手と知識を共有していることを確認し、親近感や連帯感を分かち合うことができるのである。つまり、話し手がキャンパス語を使用するという言語行動（言語選択）をとる目的は、聞き手の対人関係上の基本的欲求（ポジティブ・フェイス）に配慮していることを表示することで、円滑な対人関係を構築しそれを維持していくことにあると考えられる。

V. おわりに

前章で「龍谷大学キャンパス語」には、対人関係の構築・維持機能があり、相手に親しみを与えるポジティブ・ポライトネス・ストラテジー⁽³⁾であることがわかった。

これは「龍谷大学キャンパス語」に限られた機能なのだろうか。もう少し広く若者ことば全般の機能について考えてみよう。米川 (1996: 12) は若者語を次のように定義している。

若者語とは中学生から30歳前後の男女が、仲間内で、会話促進・娯楽・連帯・イメージ伝達・隠蔽・緩衝・浄化のために使う、規範からの自由と遊びを特徴に持つ特有の語や言い回しである。個々の語について個人の使用、言語意識にかなりの差がある。また時代によっても違う。若者ことばともいう。（下線は筆者による）

上記定義に見られる「会話促進」「娯楽」「連帯」という言葉からも明らかなように、今回収集したキャンパス語の機能は、それだけに限定されるものではなく、若者ことば全体にも見られる機能であることがわかる。つまり、若者ことばは、ポジティブ・ポライトネスに深く関係していると言えるのである。

さらに対象を広げて、若者のコミュニケーション全般についてはどうだろう。吉岡 (2004) は、ポライトネスの観点から、世代別にコミュニケーション意識を調査したところ、普段の

会話で気さくで形式ばらない親しみやすさに価値を認め、「楽しく話すこと」を大事にする意識は、若い世代で高いことがわかった⁽⁴⁾。吉岡（2004）は、他に敬語行動や規範意識についても調査しているが、すべての調査を総合的に見て、若い世代ではポジティブ・ポライトネス重視の傾向があるという結果を得た。

また宇佐美（2001）、Usami（2002）では、初対面同士の会話（72会話）を収録し、スピーチレベルやそのシフト操作という観点から分析を行った。その結果、若い層を中心に、上下関係にとらわれない気さくで対等な人間関係を志向したポジティブ・ポライトネスの比重が増しつつあることを指摘している。

さらに、村田（2004）ではテレビコマーシャル（444作品）を分析し、発話の文末を中心に、使用される言葉遣いの特徴を考察した。分析の結果、若者をターゲットとするコマーシャルでは、まるで親しい友達にでも話しかけるような言葉遣いが好感を持たれることがわかった。逆に大人向けのコマーシャルでは、ある程度距離を置いた話し方のほうが好感度が高いという結果を得た。若者世代においては、「親しみ」を表す言語ストラテジー、つまり相手のポジティブ・フェイスに配慮した言語表現が好感を持たれていると言えるだろう。

現代の若者のことばの乱れや敬語の乱れについては批判されるところだが、若者は、対人関係の構築や維持に、無頓着かつ無関心なのだろうか。今回のキャンパス語の分析を通して、彼らなりの、相手への配慮の仕方が浮き彫りになってきた。日本語では、相手と距離を離すことを表す言語表現、つまりネガティブ・ポライトネス・ストラテジーとしての敬語が体系化されているために、その逆方向の、相手に親しみを表すポジティブ・ポライトネスは受け入れがたい土壌であると言える。ゆえに、キャンパス語、あるいは若者ことばは、「ていねいな言葉遣い」という規範からは逸脱していると見なされるのかもしれない。しかし、本調査を通して、キャンパス語も、実際には、人間関係の構築・維持にとって重要な役割を担うポジティブ・ポライトネス・ストラテジーであることがわかった。

若者のことば、あるいはこれを含むいわゆる「新しい」日本語をポライトネスの観点から分析することによって、敬語の枠で捉えられてきた場合には見落とされていた、あるいは見えなかった潮流が見えるのではないだろうか。人間関係の捉え方も従来の上下関係志向から親疎関係ないしは相互尊重志向へと変わりつつあるという（堀他 1999、吉岡 2003）。また、インターネットの急速な普及により、世界中の情報がリアルタイムで交錯する現代において、価値観もグローバル化・多様化することは避けられない事実である。特に社会や価値観と密接に関わる言語の対人関係機能面については、敬語も含めたさらに広い概念である「ポライトネス」という新しいパラダイムによる分析が、今後ますます必要となるだろう。

謝辞

キャンパス語収集に協力いただいた2002年度、2003年度、2004年度英語学講読受講生にはここに記して感謝の意を表したい。

注

- (1) 複数にわたる造語法で作られた語には下線を付した。
- (2) 表現対象が複数にわたる語には下線を付した。
- (3) ストラテジーとは、通常何らかの目的を達成するための「方略」「方策」のことを指すが、ここで言うストラテジーとは、話者が相手のフェイスを脅かさないよう配慮するために用いる意識的・無意識的な言語の使い分けのことを言う。
- (4) 調査対象は10代から60代の594名であった。

参考文献

- 宇佐美まゆみ (2001) 「「ディスコース・ポライトネス」という観点から見た敬語使用の機能—敬語使用の新しい捉え方がポライトネスの談話理論に示唆すること—」『語学研究所論集』東京外国語大学語学研究所 pp.1-29
- 窪園晴夫 (2002) 『新語はこうして作られる』岩波書店
- 小矢野哲夫 (1994) 「女子大学生のキャンパスことば」『日本語学』13-11 明治書院 pp.45-53
- 永瀬治郎 (1994-1995) 「キャンパスことば全国分布図1～12」『言語』23-5～24-4 大修館書店
- 永瀬治郎 (2002) 「「若者言葉」の方言学」『21世紀の方言学』日本方言研究会(編) 国書刊行会 pp.213-225
- 中東靖恵 (2002) 『現代キャンパスことば辞典—岡山大学編』吉備人出版
- 堀素子・津田早苗・村田泰美・村田和代・関山健治 (2000) 『現代若者言葉の潮流—キヨリをおかない若者達—』大学英語教育学会 (JACET) 待遇表現研究会
- 村田和代 (2004) 「テレビコマーシャルの好感度—世代別言語ストラテジーの視点から」三宅和子他(編)『メディアとことば』ひつじ書房 pp.2-35
- 吉岡泰夫 (2003) 「敬語の社会差・地域差と対人コミュニケーションの言語問題」『朝倉日本語講座(8)敬語』朝倉書店
- 吉岡泰夫 (2004) 「コミュニケーション意識と敬語行動にみるポライトネスの地域差・世代差」『社会言語科学』7-1 pp.92-104
- 米川明彦 (1996) 『現代若者ことば考』丸善
- 米川明彦 (1998) 『若者語を科学する』明治書院
- Brown, P., and Levinson, S. 1987. *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge U.P.
- Usami, M. 2002. *Discourse Politeness in Japanese Conversation: Some Implications for a Universal Theory of Politeness*. Tokyo: Hituji syobo.
- 「私家版 関大語辞典」関大語辞典編纂委員会
<http://www51.tok2.com/home/forza12jubilo/ku/ku-words.html>
- 「神戸学院大学人文学部キャンパス言葉辞典」野田春美
<http://jjkk.human.kobegakuin.ac.jp/prof/noda/dic/frame.htm>
- 「甲南大学キャンパスことば辞典」都染直也

<http://ha8.seikyou.ne.jp/home/wexford/newpage100.htm>

「早稲田大学キャンパス言葉辞典」早稲田大学文学部国語学研究班編

<http://www.littera.waseda.ac.jp/major/nitibun/campus/campus.html>

付録 龍谷大学キャンパス語集（抜粋）

凡例

【1】見出し語について

基本的にはひらがなで、片仮名表記が一般の場合は片仮名で採録してある。漢字表記があるものは【 】内に付した。なお配列は五十音順とした。

【2】語義と用例

解説がある場合は、語義の後に◆で加えた。「 」内は用例であり、できるだけ学生が作成した会話例をそのまま利用した。

【3】その他

関連する語を参照できるように、→で示した。

えい【営】

経営学部。「営のゼミって二年からって本当なん?」「そうやで。」 → ざい

◆龍谷大学には3つの学舎がある。経済学部、経営学部、法学部、文学部（主として1, 2年時）、短期大学部が深草学舎に、文学部（主として3, 4年時）が大宮学舎に、理工学部、国際文化学部、社会学部が瀬田学舎にある。

エース

授業にほとんど出席しない人。「自分、去年も今年もエースらしいけど大丈夫なん?」「まあ、なんとかなるやろー。」

◆元々は、授業にほとんど出席しないにもかかわらず、単位を取得している人を指す。エースという言葉は、スポーツでチームの主力選手（特に野球チームの主戦投手）を指すが、授業に出なくても単位が取得できるのは並々ならぬ実力があるからだと思われ、エースのイメージと結び付けてできた言葉である。実際には、授業にほとんど出席しない人（単位も取得していない）を呼ぶ時に用いられている。

おおみやマジック【大宮マジック】

文学部三回生で60単位登録できる制度。「大宮マジックあるおかげで卒業できそうやわー。」「こっちも、文学部で良かったわー。」

◆他学部では通常は年間44～48単位が登録の上限。

おなちゅう【おな中】

同じ中学校出身者。「前、おな中の同窓会あったんやろ?」「そうやねんけど、人数めっちゃ少なくておもしろなかったわ。」

オネエ

オネエ系と呼ばれる女性のファッション、あるいはそのようなファッションの女性の総称。

化粧が濃く髪はカーラーで巻いて、服装も派手でブランド物を好んで持つタイプのこと。
「うちの大学ってオネエ少ないよなあ。」「でも、順子って、オネエちゃう？」

ぎおんしょうじゃ【祇園精舎】

深草学舎顕真館。「祇園精舎って入ったことあるっけ？」「フレキャンの時入ったやん。」

◆祇園精舎とは祇樹給孤独園沙羅双樹（寺院）の略称で、釈迦が修行したとされるインド中部の僧坊跡を指す。顕真館は法要等が行われる場所でもあり、そのイメージから祇園精舎と呼ばれている。

きた【北】

大宮学舎北麓。「今日の説明会どこであるん？」「北らしいで。」 → ひがし

キックする

登録した授業の単位取得を諦める事。「もう、あの授業テスト受けても無理そうやからキックしようかな。」「あんたそればかりしたら、単位なくなるで。」

◆蹴る（拒否する、はねつける）→「キックする」が語源。あるいは、サッカーで「キックする」からの語とも考えられる。

キプる

教室の席を確保しておくこと。「“keep”（取っておく）＋する」より。「次の時間の席、私の分キプれる？ちょっと寄るところあるから遅れるかも。」

くさ【草】

深草学舎。「草って今年誰学祭来るん？」「MAXやって。」 → せたキャン、みや、ふかくさじん

けんまえ【顕前】

（深草学舎）顕真館前。「顕前っていつも何してるん？前通りにくんやけど。」「実行委員会の宣伝やろ。」 → ぎおんしょうじゃ

ササチー

学生食堂のササミチーズフライのこと。人気メニューに取り上げられる。「今日のお昼はササチーにしようっと。」「あれっておいしいやんなあ。」

さんちか【三地下】

三号館地下の食堂。「三地下で昼ごはん食べよーや。」「今行ったらいっぱいちゃうか。」
→ にちか、よんちか

じしゅきゅうこう【自主休講】

自主的に休講すること。つまり、授業をサボる事。「次の授業は自主休講するわ。」

じもティー

地元の友達。「今電話でしゃべってたのは、じもティーやで。」 → じもッチ

◆英語で人を表す際に用いる“-ee”（例：employee, examinee）を取り入れている。

シャカシャカ

社会学部社会学科の学生。「B君ってシャカシャカやったよな？」

スぺご【スペ語】

スペイン語。「次の授業はスペ語やで。」 → チャイご、どくご、フラご、ポルご

◆初修外国語としては、他に、中国語、フランス語、ドイツ語がある。

せたキャン【瀬田キャン】

瀬田学舎。「瀬田キャンってすごいキレイらしいでー。」 → くさ、みや、みどりのか
んごく

せたっこ【瀬田っ子】

瀬田学舎に所属学部のある学生。「知らなかったけど、Cさん瀬田っ子やねんてー。」
→ みやっこ

ぜんとり【全取り】

登録した単位を落とさずに全部取ること。「やったー、後期全取りや!」

だぶる

留年する。「D君、実はだぶってるらしい。」

◆英語の“double”（2重の）を動詞化した語。「2重の」の意味から「重複する」という意味
に拡大し、それが同じ学年を重複する意味にさらに拡大して用いられている。

たんえ

しんらんしょうにんごうたんえ
親鸞聖人降誕会法要。親鸞聖人の誕生日の5月21日で、龍谷大学の創立記念日である。法
要や記念講演が開催される。「たんえって学校休みなん?」

てらっこ【寺っ子】

実家がお寺の学生。「E君、寺っ子やから将来お寺継ぐねんてー。」

テレビ

深草学舎にある屋外大型テレビ。「4限終わったらテレビの前で集合な。」

ハコる【箱る】

タバコが全部なくなること。「うわ、箱ってしまった。一本ちょうだい。」

◆タバコの箱からタバコがなくなり、箱だけになることから。あるいは、麻雀用語で、点
数が全部なくなること「ハコる」と言うことから空になることを「ハコる」と言うとも
考えられる。

はしる

授業を飛ばす（さぼる）こと。「次の授業はしって、パフェ食べに行かへん?」「いいよ。
でもまた戻ってくるわ私。その次ゼミやし。」

◆「端折る」（省いて短く縮める、省略する）からの語。あるいは「走る」からの語とも考
えられる。

はちトレ【8トレ】

深草学舎体育館第8トレーニング室。「8トレ行って来るわ。」

はちトレおう【8トレ王】

トレーニング室に一番よく練習に来る人。「今月の8トレ王はあいつやな。」

はみる

仲間はずれにすること。「はみご（仲間はずれ）」を動詞化している。「じゃあ、俺帰る
わ。」「お前そんなに付き合い悪かったらはみるで。」

ブッチする

バイト等に連絡なしでさぼること。「今日のバイトブッチしようかなあ。」 → ブチる

◆紐などが切れる際の「ブチッ」という音が語源であろう。

プリン

茶色く染めた髪が伸びて根本が黒く目立っている状態。「D君の頭、プリンになってるよ。」

「そろそろ染め直した方がよさそうやなあ。」

◆その様子がカaramelソースのかかったプリンに似ていることからこう呼ばれる。

フルたん【フル単】

履修可能制限単位いっぱい（full：一杯に）で登録すること。「俺もフル単で登録すればよかった。」

みどりのかんごく【緑の監獄】

瀬田学舎。「緑の監獄行って来るわ。」 → せたキャン

◆瀬田学舎は緑が多く広々としているが、最寄り駅から遠くまわりに住宅や店も少なくある意味では閉鎖されているイメージがあるためこのような呼び方もあるのだと考えられる。

みやっこ【宮っ子】

大宮学舎で授業がある日のこと。「今日、私宮っ子。」 → せたっこ

みやび【宮日】

大宮学舎で授業がある日のこと。通常文学部は三回生からほとんどの授業が大宮学舎で行われる。「今日、宮日や。」 → みやっこ

ラブスペース【RUVスペース】

深草学舎 2 号館前の広場。しばしば待ち合わせに使われる。「ラブスペースで待っとくわ。」「オッケー。」

◆Ryukoku UniVersity の頭文字をとってRUVスペースと呼ばれるが、それをLoveと語呂合わせして「ラブ」スペースと呼ばれている。

リーチ

あと一回休んだら単位が取得できない時の出席状況。「リーチやからもう休めへん。」

◆麻雀であと一手であがれる場合のリーチからつけられた。

りゅうちゃん【龍ちゃん】

龍大チャンネルというインターネット上の掲示板。「龍ちゃん、書き込みしたことある?」「見たことはあるよ。」

りゅうバス【龍バス】

学舎間を結ぶスクールバス。深草学舎—大宮学舎と深草学舎—瀬田学舎を結んでいる。「今日、龍バスで深草行く。」 → せたバス、みやバス